

1. 構想の概要

【構想の名称】

徹底した国際化による、グローバル社会を牽引する人材育成と金沢大学ブランドの確立

【SGUの取組を通じて目指す大学の将来像】

金沢大学は、大学憲章に掲げる「地域と社会に開かれた教育重視の研究大学」という基本理念に基づき、「東アジアの地の拠点」としてグローバル社会の中核となって活躍できる人材の育成に全力を挙げ取り組んできました。近年、あらゆる分野でグローバル化が加速し、高等教育機関に要請される役割は非常に多くなってきています。そうした要請に応える形で、金沢大学でも大学改革を強く推進してきたところでありますが、今回、「スーパーグローバル大学創成支援事業」に採択されるという、まさに絶好のタイミングで強力な起爆剤を得たことにより、従来の改革をさらに急激に加速させ、学長主導による徹底した「大学改革」と「国際化」を断行し、以下に示す10年後の姿を実現することにより、我が国の大学改革のモデルケースと成り得るような取組へと発展させます。

- ①独自の「グローバル人材スタンダード」に基づく質の高い教育を提供する大学
- ②世界で活躍する「金沢大学ブランド」の人材を輩出し、日本のグローバル化を牽引する大学
- ③東アジアの地において世界の高等教育研究ネットワークの中核に位置する大学

【構想の概要】

金沢大学は、本学が育成する人材像を具体的に示した「KUGS: 金沢大学<グローバル人材>スタンダード」を基軸とした教育カリキュラム改革、さらには教員・職員の国際化を強く推進し、金沢大学ブランドの確立を目指します。また、グローバル人材育成に関する「金沢大学モデル」を構築し、北陸地域、さらには我が国のグローバル化を牽引し、知識基盤社会の中核的なリーダーとなる人材を幅広く輩出していきます。そのために、特に教育・国際・研究とガバナンスに対応する7つの基本戦略を立て、全学的な国際化を加速し、国際化に必要な大学改革を進めていきます。

金沢大学
KANAZAWA

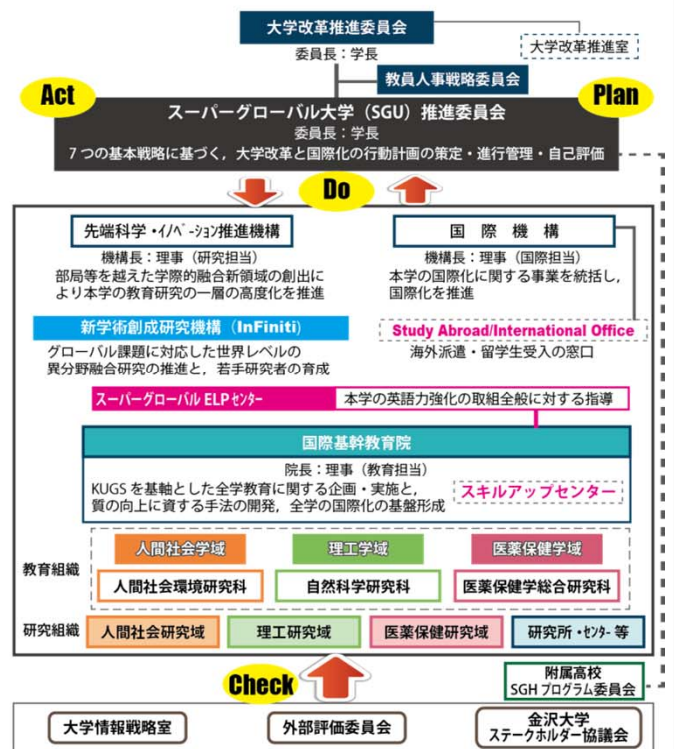
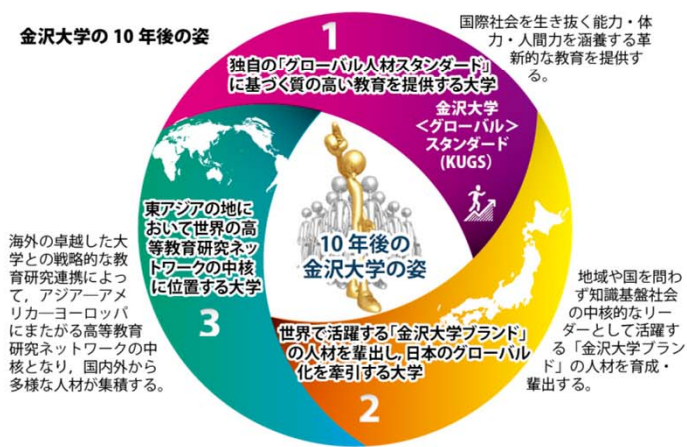
地域と世界に開かれた教育重視の研究大学

金沢大学の教育目標
専門知識と課題探求能力、さらには国際感覚と倫理観を有する人間性豊かな人材の育成
教育改革の全てのよりどころとなる「金沢大学<グローバル>スタンダード」

金沢大学<グローバル>スタンダード
グローバル化が不可逆的に進行する現在の国際社会において本学の教育目標を実現するために、本学が育成する人材の具体的な姿を明示

各人の立ち位置に課された人類の一員としての使命を国際社会で積極的に果たし、知識基盤社会の中核的なリーダーとなって、常に積極的かつ果敢に現場の困難な課題に立ち向かっていける次の5つの能力・体力・人間力を備えた専門人材

- (1) 自己の立ち位置を知る
- (2) 自己を知り、自己を鍛える
- (3) 考え・価値観を表現する
- (4) 世界とつながる
- (5) 未来を予測する



【10年間の計画概要】 ※7つの基本戦略

1 国際基幹教育院を中心としたKUGSに基づく金沢ブランド教育の実現

教育の国際化を支える「国際基幹教育院」を設置、学生の英語によるコミュニケーション能力の向上に取り組みます。学士課程、博士前期後期課程に一貫するKUGS(金沢大学グローバル人材スタンダード)を定め、KUGSに基づく新カリキュラムを構築、併せて4学期制を導入します。

2 国際学類を先導モデルとした学士課程教育の国際化の加速

国際学類が実施してきた様々な国際プログラムを全学類へ波及させ学士課程教育の国際化を加速します。全学類・全コースに最低1つ、単位互換を前提とした国際プログラムを導入、さらに単位互換科目を統合したジョイントディグリープログラムへと展開させ、日本に居ながらにして国際的な環境に身を置くことができるカリキュラムを整備します。

3 研究力強化のための教育研究特区の設置と国際化に対応した大学院教育の高度化

優位性のある学問領域をさらに強化、グローバル課題に対応した異分野融合研究を国際共同研究として推進するために「新学術創成研究機構(Institute for Frontier Science Initiative: InFiniti)」を設置、本学の研究力を強化します。特に優秀な大学院生を選抜し、InFinitiにおいて異分野融合型教育、海外一流研究機関への留学派遣等を行い、将来教育者として求められる教授法を高度TA(High Ranking Teaching Assistant)としてトレーニングします。

4 国際教育研究ネットワークと金沢大学海外拠点の充実

サバティカル制度を活用して、海外研究機関との個人ベースの繋がりを充実させ、将来的な組織間交流へ発展させます。本学職員が常駐する海外拠点をアメリカ、ヨーロッパ及びアジアに整備、将来的には教員も常駐するサテライトキャンパスを展開します。海外同窓会を充実・強化、現地での広報や留学生募集の協力体制を構築します。

5 金沢大学スーパーグローバルELPセンター(タフツ大学と連携)の設置と英語教育の強化

質の高い英語教育で有名なタフツ大学のELP(English Language Programs)を実践するセンターを設置、教員、職員及び学生の英語力の向上を図ります。タフツ大学と連携して、シラバス、ナンバリング、教授法及び評価法の確立に取り組み、国際スタンダードに基づく教育を実施するとともに、タフツ大学が有する国際教育ネットワークへの参画を実現します。

6 地域「超」体験プログラムとSGHとの連携による地域のグローバル化の牽引

本学の留学生全員が日本人学生と共に地域の人々と直接ふれあう機会を持つ地域「超」体験プログラムを実施します。幼稚園から高校までの附属学校園を有する本学の特徴を活用、初等中等教育の国際化に対応した教員養成を行います。SGH(Super Global High School)である附属高校等と連携、新たな高大接続モデルを構築、相乗的な国際化を実現します。

7 学長のリーダーシップによる迅速かつ強力なガバナンス改革

本学の改革に関する全ての事項を統括・推進する司令塔として、大学改革推進委員会を設置、学長のリーダーシップの下、大学運営・教員人事制度を中心に断固としたガバナンス改革を推進します。

【特徴的な取組(国際化、ガバナンス改革、教育改革等)】

OKUGSで掲げる5つの能力・体力・人間力を備えた人材を育成するため、人間力強化プログラムを導入し、プログラムへの参加を卒業要件とします。人間力強化プログラムの目的は、参加者が体力・精神力の重要性と多様な価値観の存在を認識し、学生自身が社会の一員であることを自覚することにあります。学生は、このプログラムにおいて、1~3年次のいずれかに【海外派遣】もしくは留学生と日本人学生がチームで参加する【地域「超」体験】のいずれかを選択し、金沢大学キャンパス外の日常を経験することになり、この経験により将来の国際社会で生き抜くための人間力を涵養します。

○本学の大学間交流協定校であるタフツ大学は、ポストン近郊に位置する1852年創立の名門大学であり、質の高い英語研修プログラム(English Language Programs: ELP)とともに、1クラス15名以下の少人数クラスやアクティブ・ラーニングなどの高水準の教育によって知られています。本学は日本における唯一の協定校であり、この優れたタフツELPを活用するため、タフツ大学の協力を得て、同大学のELP教員が駐在する「金沢大学スーパーグローバルELPセンター」を本学に設置し、教員を対象とした英語による教授法、職員を対象としたビジネス英語及び学生の留学向けの英語力の向上を図ります。

○本学のステークホルダーによる「金沢大学ステークホルダー協議会」を設置し、本学の教育、研究及び運営状況等を報告するとともに、大学への意見や要望等を求め、今後の大学運営に反映させます。

本学のステークホルダー:

教職員、在学生、保護者、卒業生(同窓会)、受験生、高校関係者、地域住民、企業、自治体、外郭団体〔金沢大学生協、金沢大学済美会、角間里山みらい等〕

2. 取組内容の進捗状況(平成26年度)

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○ 金沢大学スーパーグローバルELPセンターを設置

平成27年3月、角間キャンパスゲストハウス内に「金沢大学スーパーグローバルELPセンター」を設置しました。本センターは、本学の大学間国際交流協定校であるタフツ大学(米国)の全面的な協力のもとに設立され、学生及び教職員の英語力強化を担います。

○ 附属図書館内に「国際交流ルーム」を設置

平成27年3月27日、自然科学系図書館に、留学生と日本人学生の交流スペースとして新たに「国際交流ルーム」がオープンしました。「国際交流ルーム」は、留学生と日本人学生の〈学び〉を通じた交流を促進することを設置目的とし、ディスカッション・プレゼンテーションの設備を備えています。

○ ベルギーに金沢大学гент事務所を設置

平成27年5月19日、ベルギーのгент大学内に金沢大学гент事務所を設置しました。гент大学とは、2009年(平成21年)7月に本学と大学間国際交流協定を締結しています。



〈金沢大学гент事務所を設置〉

○ 金沢大学タイ同窓会及び中国同窓会を設立

平成26年8月26日に金沢大学タイ同窓会が設立され、11月8日に同じく中国同窓会が設立されました。平成25年度以前に設立された同窓会ポストン支部、ベトナム支部、ミャンマー同窓会に続く海外同窓会となります。

○ トビタテ！留学JAPANで本学学生が積極的に留学

平成26年度に開始した官民協働の海外留学支援制度「トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム」において、第1期には本学から13名の学生が応募して4名が合格し、第2期には22名の学生が応募して7名が合格しました。第2期は、応募者数、合格者数ともに全国の国立大学で第4位という好結果でした。

ガバナンス改革関連

○ 金沢大学スーパーグローバル大学企画・推進本部を設置

平成27年2月10日、SGU事業「徹底した国際化による、グローバル社会を牽引する人材育成と金沢大学ブランドの確立」構想の推進のため、スーパーグローバル大学企画・推進本部を設置しました。

○ 金沢大学SGU事業キックオフシンポジウムを開催

平成27年3月22日、金沢市内で金沢大学SGU事業キックオフシンポジウム「金沢大学〈グローバル〉スタンダード確立への挑戦」を開催し、国内外から約230名が参加しました。シンポジウムでは、本学学長挨拶、理事からの事業説明及び来賓挨拶に続き、元国際連合事務次長の明石康氏による基調講演が行われました。

○ SGU事業に係る学内説明会を実施

平成27年6月4日、教職員を対象に学内説明会を実施し、400名以上が参加しました。説明会では、学長及び理事等から事業の概要や、本学の取り組み、本学の10年後の姿などについて説明しました。



〈金沢大学SGU事業キックオフシンポジウム〉

教育改革関連

○ 学生向け「スーパーグローバル英語プログラム」を開講

平成27年4月より、「金沢大学スーパーグローバルELPセンター」において学生向けの「スーパーグローバル英語プログラム」を開講しました。タフツ大学から派遣された講師による少人数制の授業で、留学に必要な英語力の育成を目指します。

○ 「英語学習アドバイザー」制度の運用を開始

平成27年4月より、学生の英語力向上を目的とした「英語学習アドバイザー」制度の運用を開始しました。アドバイザーは英語学習に関するカウンセリング、学習サポート及びTOEIC対策レッスン等の各種講座などを担当し、教育効果の向上を図ります。

○ 国際学類の入試で外部試験活用を開始

平成26年度に実施した平成27年度の入試において、本学人間社会学域国際学類では、TOEIC、TOEFL等の外部試験のスコアの提出を認め、スコアが定められた基準を超えている場合には大学入試センター試験「英語」の成績を満点とみなすこととしました。

■ 大学独自の成果指標と達成目標

○ コラボラティブ・プロフェッサー委嘱状授与式を挙

平成27年3月22日、新たにコラボラティブ・プロフェッサーとして委嘱された3名の委嘱状授与式を挙りました。コラボラティブ・プロフェッサーは、海外において本学の学生募集、派遣学生のフォローアップや国際共同研究の推進などを行います。

○ タフツ大学ELP(English Language Program)による教員対象英語研修プログラムを開講

平成27年3月より、「金沢大学スーパーグローバルELPセンター」において、教員対象英語研修プログラム(試行版)を開講しました。参加教員22名は、3月中に対面授業を受講し、学期期間はe-Learningで受講しました。



〈コラボラティブ・プロフェッサー委嘱状授与式〉

○ サバティカル制度を施行し、教員が海外で研修を開始

平成26年度、6名の教員が海外でサバティカル研修を開始しました。平成27年度も6名の教員が海外での研修を計画しており、今後拡大していく予定です。

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

○ 金沢大学新学術創成研究機構(InFiniti)を設置

平成27年4月1日、金沢大学新学術創成研究機構(InFiniti)が設置されました。同機構は、異分野融合研究の国際的共同研究及び国際的な環境での優秀な大学院生の育成を推進します。

○ 人間力強化プログラム「学長と行く能登合宿」「学長と行く五箇山合宿」を実施

金沢大学グローバルスタンダード(KUGS)で掲げる5つの能力・体力・人間力を備えた人材を育成するために人間力強化プログラムが導入され、その一環として平成26年8月に「学長と行く能登合宿」、平成27年2月に「学長と行く五箇山合宿」が実施され、計66名の学生が参加しました。



〈人間力強化プログラム「学長と行く五箇山合宿」〉

○ 英語による授業及び英語のみで卒業できるコース設置について、FD研修を実施

平成26年3月、グローバル化において先進的な取り組みを行っている国際教養大学及び首都大学東京の教員を講師としてFD研修を実施し、英語による授業及び英語のみで卒業できるコースの設置に向けて認識を共有しました。

■ 自由記述欄

日本人学生と留学生の混住型学生宿舎の整備

金沢大学では、様々な国や人種の学生が、地域や文化の枠を超えて共同で学び生活する混住型の学生宿舎を整備します。既に「先魁(さきがけ)Ⅰ」(104人収容 平成24年10月)が完成しており、平成28年には隣接地に「先魁(さきがけ)Ⅱ」(200人収容)を建設予定です。将来的には、金沢市中心部にある学生寮3寮を移転し、800人規模の混住型学生寮を整備します。

歴史と文化に近代都市が融合する金沢市

金沢大学のある金沢市は、日本列島の中央、日本海側に位置し、平成27年の北陸新幹線開通により、東京へのアクセスは2時間半となりました。人口約45万人と大き過ぎず、日本海側を代表する近代都市ですが、江戸時代の城下町の風情をいまに残し、多彩な伝統文化が息づいています。



角間キャンパス

メインキャンパスは、総面積200万㎡、東京ドーム約43個分という広さで、緑豊かな里山に囲まれた学生生活には最高の環境です。一方、街まで車で5分、市内の中心部でも15分程度と生活にも困りません。また、アクティビティとしては、夏は海水浴場、冬はスキー場が2時間圏内にあります。



〈混住型学生宿舎「先魁(さきがけ)Ⅰ」〉



〈写真手前が角間キャンパス 奥が金沢市街 その向こうに日本海を望む〉

3. 取組内容の進捗状況(平成27年度)

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○ 新規プログラム開発による学生の海外派遣の推進

新しい海外派遣プログラムの開発を進めた結果、平成27年度の留学経験者数(単位取得有)は前年度比2倍弱(114人増)の248人となりました。平成28年度には新規・既存のプログラムを合わせて500人以上の学生が派遣可能です。多数の学生を滞りなく派遣するため、平成28年4月に「スタディアブロード・オフィス」を設置し、学生の派遣を一元的にサポートする体制を整えました。



○ 「国際交流スタジオ」の設置等による附属図書館のグローバル化

平成28年3月に、外国人留学生と日本人学生が日常的にコミュニケーションを取るための空間として、附属図書館3館に「国際交流スタジオ」(1館においては「国際交流コーナー」)を設置しました。国際交流スタジオには「留学生ラーニング・コンシェルジュ」を配置し、留学生の学修相談や、日本人学生との外国語会話練習に対応しています。



○ 留学生カウンセラーの常駐等による留学生支援の充実化

平成27年10月に英語で対応できるカウンセラー(常勤教員)を配置しました。また、本学の留学生支援に携わる学外者を「国際交流アドバイザー」として任命する制度も設け、学内外から留学生のメンタルヘルスや生活面を支援する体制を充実させました。

○ 海外同窓会の拡大とネットワーク構築

平成28年1月に、本学で6つ目の海外同窓会となる「インドネシア同窓会」が設立され、140名を超える同窓生等が設立記念懇談会に参加しました。また、平成27年10月には本学において第1回海外同窓会総会を開催し、同窓会と本学および同窓会同士のネットワーク構築を進めました。このネットワークを活用した研究・教育交流の拡大が期待されます。



ガバナンス改革関連

○ ガバナンス改革による事業実施体制の強化

部局長の選考時に学長が面接を行い、SGU事業を含めた本学の方針に関して意見交換を行うことにより、各事業実施部局と密に連携した体制が強化され、迅速かつ的確に事業を遂行しています。

○ ステークホルダーの意見を事業へ反映

平成27年7月に初回となる「金沢大学ステークホルダー協議会」を開催し、SGU事業を含む本学の教育、研究および運営状況等について報告しました。また、学内外のステークホルダーからさまざまな意見や要望を聴取し、広く得られた意見を参考に、本事業を推進しています。



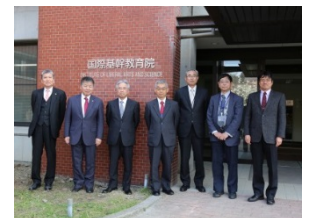
○ 新しい人事制度の活用による優秀な研究者の確保

平成27年1月から導入した年俸制や、同年4月から導入したコンカレント・アポイントメント制度といった新しい人事制度を積極的に活用し、平成27年度までに37名(うち海外からの招へい3名)の「リサーチプロフェッサー」を採用し、国内外の優秀な研究者の確保に努めています。

教育改革関連

○ 「国際基幹教育院」設置による大規模教育改革の実施

平成28年4月に、本学が独自に定めた「金沢大学<グローバル>スタンダード(KUGS)」に基づいた基幹教育を担う組織として「国際基幹教育院」が設置されました。これまでの約300科目の共通教育科目が、KUGSに基づく30科目のGS科目に集約され、全ての学生が金沢大学生として必ず身につけるべき内容を学修することができるカリキュラムとなりました。



○ クォーター制導入による海外派遣の推奨

平成28年度からクォーター制を導入しました。学類ごとに必修科目を入れないクォーターを設定することで、短期の海外派遣プログラムへの参加が容易になるほか、クォーター制を上手く活用することで、留年せずに半年~1年の留学をすることも可能になります。

○ 「英語化マニフェスト」に基づいた全学的な授業英語化の推進

平成27年度に、教育担当理事が「英語化マニフェスト(学生篇)」および「英語化マニフェスト(教職員篇)」を策定し、本学の授業英語化は何のために、どのように行うかを明確にしました。これらを周知徹底し、全学的に授業英語化を推進する土壌を形成した結果、平成27年度の外国語による授業科目数は前年度比3.6倍(422科目増)の585科目となりました。

■ 大学独自の成果指標と達成目標

○ タフツ大学との連携による教職員の英語力およびFDの強化

タフツ大学(米国)の協力のもと平成27年4月に設置した「金沢大学スーパーグローバルELPセンター」において、学生だけではなく教職員向けの英語研修を実施し、平成27年度までに97人の教職員が研修を受講しました。また、平成28年2月にタフツ大学CELT(Center for the Enhancement of Learning and Teaching)のセンター長等が来学し、先進的なFDの取組について講演会を行い、教職員らの見識を深めました。



○ 職員派遣の推進による海外拠点の機能強化

海外研修の一環として、本学重点交流校への職員派遣プログラムを開始し、平成27年度はタフツ大学(アメリカ)およびゼント大学(ベルギー)にそれぞれ2名の職員を8日～2週間程度にわたり派遣し、本学情報の発信、現地情報の収集、留学生のリクルート等を行いました。



○ 「高度TA」制度による未来を担う教員の育成

平成27年度に、従来のTAよりも高度な活動を行う「高度TA」制度を開始し、新学術創成研究機構において14名の博士後期学生を採用しました。採用学生は「スキルアップセンター」で教授法の研修を受けてから実際の授業の講義補助を行い、将来は大学教員となることが期待されています。

○ 多様な人材の受入れを見据えた入試改革の実施

平成30年度入試から導入する「文系一括・理系一括入試」の概要について、平成28年5月に公表しました。本学の特色である学域学類制を活かし、入学してからじっくりと時間をかけて自身の専門分野を選択できるシステムを整え、多様な志向を持った学生の受入れにつなげます。また、平成27年度入試から国際学類で導入した英語外部試験の利用を、平成30年度入試には全学類に拡大することを予定しています。

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

○ 高大連携によるグローバル人材育成につなげるシンポジウムの開催

平成28年3月に、本学附属高校を含む石川県内の6高校(SGH、SSH等採択校)の協力を得て、高大連携によるグローバル人材の育成をテーマとしたシンポジウムを開催し、高校生160名を含む約280名が参加しました。「グローバルサイエンスキャンパス」事業への採択も追い風として、今後さらに高大連携を強化し、優秀な高校生の確保につなげます。



○ トビタテ！留学JAPANによる留学推進のための独自支援を実施

トビタテ！留学JAPANによる留学を推進するため、学内説明会の実施や事務担当者による個別相談会、書面審査合格者に対する学長との面接練習など、独自の支援を行っています。



○ 「地域『超』体験プログラム」を通じた人間力強化

平成26年から開始した人間力強化プログラムを、平成27年度から共通教育科目「地域『超』体験プログラム」として開講し、回数を4回に増やして実施しました。地域に根付いた文化体験や、民泊による地元の人々との交流といった貴重な体験は学生からの評判も良く、4回合わせて112名(うち留学生20名)が参加しました。



■ 自由記述欄

○ 多様なメディアを活用した情報発信の推進

既存の事業Webサイトに加えて、平成27年度には「KU-SGU通信」の発行(月1回)を開始し、本学SGU事業の特徴的な取組について簡潔にわかりやすく伝えています。またFacebookによる情報発信も開始し、イベント周知等に加えて、海外に派遣された職員からの現地レポートなどより親しみやすい内容を発信しています。



○ グローバル化をイメージした新しいプロモーションビデオの公開

平成27年12月にグローバル化をイメージした新しいプロモーションビデオを公開しました。有名アーティストのミュージックビデオを多数手がける丸山健志氏(金沢市出身)を監督に迎え、本学の日本人学生・留学生もエキストラとして多数出演しました。本学キャンパスおよび金沢市内各所で撮影された美しい映像が、疾走感あふれる音楽と共に映し出される、海外のショートフィルムのような作品となっています。

